

第五回

東京高円寺阿波おどり

体験記

名寄高等学校

新聞局

まなか

かずき

真坂

和希

すすき

あみ

鈴木

亜実

8月24日～25日、東京都杉並区で「第65回東京高円寺阿波おどり」が開催されました。市からは、「風舞連」が参加。杉並区の交流都市から参加している連の皆さんと一緒に踊り、会場を盛り上げてきました。風舞連は子ども・大人総勢26人が参加。その中には、名寄高校新聞局の生徒2人も参加してくれました。今回は一緒に参加した2人に体験記を書いてもらいました。

名寄高校 2年 真坂 和希

今回で名寄高校新聞局としては2度目の参加をさせていただきました。1回目は先輩が参加していたので先輩から聞いた内容だと3時間もずっと踊っていて大変だったと聞いていたので、始めは参加に乗り気ではありませんでした。

参加してみたら自分と同じ一般参加の方もいて安心しました。風舞連の方々がいろいろ衣装の準備や自分にあった道具などを準備したりしてくれて初心者の僕でも助か

りました。踊りをやっていた叔母からは阿波踊りは難しいと聞いていましたが習ってみたところ細かい動きが少なくてすぐ覚えることができました。

当日の阿波踊りでは

名寄では見たことないほどの人で「これが東京かあ」と感動しました。そして始まった阿波踊りでしたが、踊ってる最中は観客も盛り上がっていて楽しく踊ることができました。逆に待ってる時間のほうが長く感じた程です。

阿波踊りが終わった直後にゲリラ豪雨に直撃したときは初めての体験と阿波踊りの楽しさもあって嬉しかったです。その後の打ち上げでは子ども組で料理を食べてホテルに帰りました。

次の日には午前中は自由時間だったので浅草寺やハチ公、スクランブル交差点を見て回りました。どこも見渡す限り100人



はざつというほどで名寄との違いを感じました。羽田空港では『Youは何しに日本へ?』のカメラがありました。

始めは阿波踊りに好印象を抱いていなかったですが、当日やってみると和気あいあいとしていて楽しかったですし、自由時間で東京の街並みを観光できて良い経験になったと思います。

▼風舞連全員の集合写真



名寄高校 1年 鈴木 亜実

私は「夏休み中に他の同級生が絶対に体験できないような事をやってやる!」という目標があったので、今回阿波踊り参加の企画を聞いた時は二つ返事で快諾しました。参加するに当たって一番にインスパイアを受けたのは、世代の幅広さです。練習のために交流センターへ訪れ手取り足取り教えてもらう時、小学生や大人、高校生など世代の幅が広く、中には家族一緒に参加している方もおり、「年齢や国籍など関係なく繋ぎ止める力が阿波踊りにあるんだろな」と思いました。当日、参加する他の連を見てもそれが一目で分かります。聴覚障害を持った方々が集まった連、外国人が集まった連など他にもたくさんあります。私は、繋がりがあから阿波踊りの熱は消えないんだろうと思いました。

阿波踊りの稽古をつけていただいた風舞連の方々は、踊るための基礎やうまく魅せるための動き方など、さまざまなおことをご教授頂いて本当に感謝でいっぱいです。指導していただく際に、できる事が増えるのとたくさん褒めてくれたので次



のモチベーションに繋がってすごく楽しかったです。

踊る当日、他の連と合同で踊ると知って踊る事とは別の緊張が走り頭が真っ白になりましたが、踊ってみるとそんなことは吹っ飛び笑顔で踊り終えることができました。その日だけ自分はアイドルになっっているような心地で今年一番笑った気がします。そのままホテルに戻り一日を振り返って、観客の歓声が踊ったあとでもしっかりに残っていて、つい個室で踊ってしまいました。



▲仲良くなって写真も撮りました

2日目は朝から自由時間で東京観光。恥ずかしながら路線図の見方が分からないので、市役所の方が一緒にまわっていただくことになりました。洋服を買ったり、ハチ



公とツーショットを撮ったり、名寄では味わえない新鮮な体験ができて終始ワクワクが途絶えませんでした。

昼には渋谷から離れた浅草へ足を運び、浅草寺を見に行きました。雷門はテレビで見た物より迫力が桁違いで見とれて人混みであることを忘れるほどで、本当に楽しかったです。

私が伝えたいのは、阿波踊りへの参加を決めるまで、いろいろ不安なことがありましたが、アクシデントというものは特になく、むしろ良い思い出ができたということです。みんなも挑戦することを諦めないでいろいろなことをやってみてほしいし、阿波踊りもやってみてほしいです。名寄がもっと挑戦心にかがやきますように。



問い合わせ

交流推進課交流推進係

(名寄庁舎3階)

☎01654③2111

(内線3318)

Tokyo Koenji
Awaodori 2024